

不易の課題「生きる力」

金沢大学教育学部附属中学校

校長 石村 宇佐一

21世紀が力強く、着実に歩み始めたのを感じます。教育環境も大きく変化しました。国立大学法人金沢大学教育学部附属中学校として2年目の半年が過ぎています。いつの時代にあっても、生徒たちを育み、さまざまな能力を伸ばすことは、学校教育に与えられた不易の課題であります。特に、生徒たちに自ら学び自ら考え、主体的に判断して問題を解決する「生きる力」を身につけさせることが重要になってきました。本校では、平成14年度より、「21世紀を担う生徒の育成を目指して」という主題の下、「生きる力」を育成すべく、教科の学習に焦点を当て、実践研究に取り組んでまいりました。

今年度は、「小・中の連携を見据えた中学校教育の探究」を副題として小・中連携の土台作り、それを見据えながら中学校として各教科で生徒の中に「問題解決力」をどのように育成するか模索しております。昨年度は、「小中連携」の教育理念・教育目標・教育方針づくりをおこないました。研究で見えてきたことは、学習を進めていく際に、多くの教科で生徒同士が共に活動する場面がとても重要な鍵になりました。さらに発展して、異年齢の交流の中の「学び」が求められています。今後、小学校と中学校という異年齢、異文化同士の子どもの交流が大きな課題であると思われれます。

今年度の研究を進めるにあたり、広島大学大学院教授森敏昭先生をお招きし、小中連携のあり方や問題解決力の育成について研修会を行いました。そこでは、「真の学び」とは何かを軸に研究を進めていくうえで多くの示唆をいただきました。講演会では、『小・中連携による「真の問題解決力」の育成』と題して、森先生から貴重なお話をいただくことになっております。まだまだ研究の途上で、課題も山積しておりますが、授業の一端を公開し、皆様方の忌憚のないご意見を頂戴できればと存じます。

最後になりましたが、教育研究発表会の開催にあたり、ご支援をいただきました石川県教育委員会、金沢市教育委員会に対し厚くお礼申し上げます。また、各教科別分科会で助言者及び司会者をお引き受けくださいました公立中学校および金沢大学教育学部の諸先生方に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年11月18日